令 和 6 年 度　　学 校 経 営 計 画

1　学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を養い、友愛の中に自己を実現し、社会的に自立する明るくたくましい人間を育成する。

〈校　訓〉〇仲よく楽しく学びましょう　〇恐れずくじけず励みましょう　〇明るく正しく生きましょう

2　学校の特色

・聴覚障害のある幼児児童生徒と軽度知的障害のある高等部の生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立して社会参加することや、共に学び、共に生活して、地域社会で活躍することを目指して学んでいる。

・聴覚障害のある生徒を対象とした、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、幼稚部には０歳、１歳、２歳児のための乳幼児教室がある。また、軽度知的障害のある生徒を対象とした、高等部に福祉・サービス科を設置している。

・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行っている。

・コミュニケーション能力を養い、社会性や望ましい人間関係を育てるために、それぞれの学部が地元の保育園や学校と交流活動を行っている。

・聴覚障害教育センターとして、幼稚園・保育園・こども園、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する聴覚障害児及び卒業生を含む成人聴覚障害者を支援している。

・中学部・高等部の生徒全員が卓球部に所属し、北陸地区聾学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟主催の各大会に参加している。

3　学校の現状と課題

ア　現状

・聴覚口話法を基本とし、個々の実態に応じた有効なコミュニケーション手段（手話、指文字、筆談等）を用いて、コミュニケーション能力の育成を図っている。

・医療体制の充実による障害の早期発見や地域の学校への進学等により、幼児児童生徒数が減少し、一人学級、少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。

・障害の重度・重複化、多様化により、幼児児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教員の指導力の向上が求められる。

・職業観を高め、自分に合った進路選択ができるよう幼児児童生徒の発達段階に応じた指導実践が求められる。また、聴覚障害生徒の高等部卒業後の就職や進学、軽度知的障害生徒の就労支援等多様な進路希望に対応するため、個々に応じた進路指導の充実が求められる。

・医療的ケアの児童生徒が在籍しており、指導医、主治医、保護者、担任、養護教諭、看護職員等が連携を密にし、安全な医療的ケアの実施に努めている。

・聴覚障害教育センターとして、地域の聴覚障害幼児児童生徒が在籍する学校への支援が求められており、聴覚障害教育における専門性の維持・向上が必要である。

・防災や感染症予防など、緊急時における校内の体制づくりに努め、危機管理に対する対応力を強化する必要がある。

・幼児児童生徒数の減少から教員数が減少し、今後、学校の小規模化が予想される。そのため、業務の精選や分掌業務の統合など学校運営上の工夫が必要となってくる。

イ　課題

・学び合い活動を通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる幼児児童生徒を育てる支援の在り方。

・規範意識を育み、主体的に「きまり」を守ろうとする児童生徒の育成。

4　学校教育計画

項　目				目標･方針及び計画
1	学習活動	教育課程 （教務部）	目標	○効果的な指導計画の作成・活用・評価のために、個別の教育支援計画、個別の指導計画、成績関係書類等の関連を整理し、作成に取り組む。
			計画	・法令等の根拠を参照しながら進める。 ・他校等から情報を収集したり、各学部と意見交換し合意形成したりしながら作成する。 ・校務支援システムの運用計画や各書式、マニュアル等の整備を行う。
		教科指導 （幼稚部）	目標	○自分の思いを表現する力を高め、主体的に活動に取り組むことができる幼児を育てる支援の在り方を探る。
			計画	・それぞれの幼児について自分の思いを表現する力や手段についての実態把握と目標設定を行う。 ・自分の思いを表現し、主体的に取り組むことができる活動内容について検討し設定する。表現する力を高めるための環境設定や支援について検討、共通理解をして実践を積み重ねていく。
		教科指導 （小学部） 重点１	目標	○<u>学び合い活動を通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる児童を育てる支援の在り方を探る。</u>
			計画	・<u>小学部における「柔軟かつたくましく対応できる」姿や重点を置くキャリア教育の項目、児童の実態と目標について再確認し、共通理解を図る。</u> ・<u>学び合い活動の場を設定し、授業研究や事例研究を通して児童が思いを伝え合い、主体的に行動するための支援を検討する。</u>
		教科指導 （中学部）	目標	○生徒が自分の役割に気付き主体的に取り組むことができるための指導・支援の在り方を探る。
			計画	・生徒の思いを引き出し、それに合う表現に結び付けていけるよう、各生徒に応じた支援の方法を検討する。 ・生徒に「行事の運営を任せる」部分を決め、話し合い活動の場面を設定する。生徒同士で話し合いを進めることができるようにするための支援について検討する。
		教科指導 （高等部）	目標	○生徒が自己理解を深め、自分らしく主体的に生きるための支援の在り方を探る。
			計画	・「自己理解・自己管理」、「人間関係形成・社会形成能力」に関する力に重点を置き、コミュニケーションの機会を設定して支援の在り方を検討する。 ・高等部としての目標達成へ向け、各グループ間の情報交換や共通理解の場を設け、より多くの目で生徒の課題や成長を確認し、支援の妥当性を検討する。
2	学校生活	生徒指導 重点２	目標	○発達段階に応じた指導を通して規範意識を育み、<u>主体的に「きまり」を守ろうとする態度の育成を図る。</u>
			計画	・<u>生徒心得、校内規定、様式を見直し、児童・生徒が理解すること</u>で、安全で楽しい学校生活を送ることができるようにする。 ・外部講師を招いたり、道徳等の授業と連携したりして、<u>校内外のルールやマナー、約束を理解できる機会を設定する。</u>
		保健	目標	○幼児児童生徒が、歯みがきの大切さを知り、自分の歯みがきの状態を把握し、歯みがきで気を付けることを確認できるようにする。
			計画	・学部集会等で、歯みがきの大切さを知らせる。 ・年に２回、歯みがき等についてのアンケートを取る。 ・年に２回、染出しを行い、幼児児童生徒が自分の歯みがきの仕方を確認する機会をもつ。

3	進路支援	進路指導	目標	○就業体験のイメージを具体化できる情報発信と、個別相談の充実により、生徒一人一人の主体的な進路選択を支援する。
			計画	・ホームページや校内掲示、進路だより等で、就業体験者の声や写真・動画を積極的に活用し、タイムリーな情報発信を行う。 ・就業体験の事前学習では、目的意識の明確化やマナー指導を行い、事後学習では、振り返りや成果発表の場を設け、学びを深める。 ・生徒や保護者との面談や情報共有を積極的に行い、生徒の進路選択を支援する。
4	特別活動	特別活動	目標	○幼児児童生徒が主体的に行動し、互いによりよい関り方ができるようにする。
			計画	・児童会、生徒会を中心に全校で取り組める活動を企画し、実行することで、普段の学校生活の中でこれまで以上に関わりをもてるようにする。
		学校 図書館	目標	○図書室の整備や図書室利用の機会の拡充を図る。
			計画	・図書管理システムを活用して、蔵書管理の電子化と貸出を進める。 ・学校図書館司書の助言を基に、見やすく借りやすい図書の配置を行う。 ・貸出率が向上するよう、図書委員会で本の紹介や本に興味をもってもらえるような活動を企画する。また、学校図書館利用の生徒向け説明会等を行う。
5	その他	ＰＴＡ 活動	目標	○保護者のニーズを把握するアンケートを実施し、回答をホームページに掲載する。
			計画	・アンケートを安心・安全メールで配信する。 ・保護者の意見を参考に、アンケートの形式や質問を分かりやすくしたり閲覧しやすくしたりするなど、利便性の向上を図る。
		教育相談	目標	○聴覚障害教育に関する情報の発信に努め、関係教職員への理解啓発を図る。
			計画	・聴覚障害教育に関するパンフレットや資料を改訂し、聞こえや言葉に関する相談に分かりやすく対応できるようにする。 ・定期的な教育相談利用者の在籍校（園）やこども支援センター等と情報交換を行い、共通理解をしながら支援に当たる。 ・聴覚障害教育に関する講座等を開き、関係教職員の専門性向上を図る。
		研　修	目標	○各学部でライフステージに応じたキャリア教育を推進し、学校課題解明を図る。
			計画	・前年度の成果と課題を基に、各学部で研究計画を立てる。 ・学部の研究について共通理解する場を設け、学部間の移行や連携を図る。 ・授業研究や事例研究等を行い、成果を研究集録にまとめる。
		図書・情報	目標	○幼児児童生徒の情報活用能力向上と情報モラルの理解を促進する。
			計画	・各学部にＩＣＴ教育推進リーダーを配置し、リーダー間で定期的な研修会を実施して、情報活用能力向上と情報モラルの理解を図る。 ・ＩＣＴ機器を活用し、個別最適な学びを目指した授業実践を行う。 ・生成ＡＩやＶＲゴーグル等の先進的な内容について研修会を行う。

5　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和６年度　　富山聴覚総合支援学校アクションプラン　（小学部）　－１－		
重点項目	学習活動	
重点課題	学び合い活動を通して伝え合う力を高め、主体的に行動できる児童を育てる支援の在り方を探る。	
現　　状	昨年度は、二つのグループに分かれて清掃活動に取り組んだ。Ａグループでは、振り返りシートを使って振り返りを行うことで、課題に気付き、次回に頑張ることを考えて発表し、課題を解決するために友達と声を掛け合う姿が増えた。しかし、複数の友達に一斉に話をする際、注目して話を聞く状態にあるかを確認せずに話すため、伝わっていない友達がいても気付かないということがよくあった。Ｂグループでは、スケジュール表を使うことで見通しをもち、主体的に活動を進めることができるようになり、「ありがとう」「お願い」「できた」「終わった」等、簡単なやりとりや報告ができるようになってきた。しかし、同じ流れ、同じ場所で活動するため、内容が固定化してきている。 今年度は、学部全体で集団遊びの活動を行う場を設定する。Ａグループでは、みんなが楽しく活動できるように計画や振り返りの場を設け、活動の内容や進め方について話し合う活動を通して、自分の伝え方の課題を見付けることができるように支援していく。Ｂグループでは、活動の中で自分の希望を友達に伝える場面を盛り込み、やりとりに変化をもたせていきたい。児童が伝え合い、活動を楽しんだり児童同士で課題を解決したりする経験を積み重ねていきたい。	
達成目標	集団遊びの時間を設ける。	個々の児童の目標や支援の在り方について協議する。
	学期８回以上	年間５回以上
方　　策	・昼休みの時間を利用して定期的に全員での集団遊びの時間を設ける。 ・みんなが楽しく活動するために、児童が集団遊びの内容や進め方を話し合ったり、振り返りを行うことで修正して次の活動に生かしたりすることができるように支援する。	・部会研究を通して、児童の実態と目標について再確認する。 ・児童が自ら課題を見つけ、一人で又はお互い協力して課題を解決するための支援や場面設定について協議する。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和６年度　　富山聴覚総合支援学校アクションプラン　（生徒指導部）　－２－		
重点項目	生徒指導	
重点課題	発達段階に応じた指導を通して規範意識を育み、主体的に「きまり」を守ろうとする児童生徒を育成する。	
現　　状	生活経験の乏しさや、相手の気持ちを汲み取ることが苦手だったり自己の感情のコントールが難しかったりする児童生徒が多くみられる。そのため何気ない会話からトラブルになったり、相手の気持ちに構わず自分の楽しいことを共有させようと無理強いしたりするなどの様子が見られる。また、校内で大声で騒いだり、周囲の状況を理解せずに乗車待ちの列に割り込んだりと友達もやっているからいいだろうと「きまり」を守る意識が低い児童生徒が多い。	
達成目標	外部講師による講話の機会も含め、マナーやルールについて考える機会を設定する。	講演会終了後にアンケートを実施し、規範意識、マナーの理解度を測り、今後の生徒心得の作成の見直しを図る。
	５回	２回
方　　策	・学部集会や、外部講師を迎えた講習会を行うことで、基本的な生活習慣や、普段から守るべきことを確認し意識することができるようにする。 ・講習会等を通して自己を振り返る機会をもつ。	・生徒心得、校内規定等を見直し、規範意識に関するアンケートを実施し、各自の「きまり」を守る意識を測り、課題を見つけ目標を設定する機会をもたせる。 ・アンケートの結果や講演内容を参考にして、生徒心得や校内規定等の見直しを行う。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）